

第6回共生のひろばに寄せて

伊藤真之（神戸大学／ひょうごサイエンス・クロスオーバーネット）

はじめに

「共生のひろば」のお手伝いを少しさせていただいている「ひょうごサイエンス・クロスオーバーネット」（略称：クロスネット）と「RCE兵庫－神戸」の伊藤と申します。「クロスネット」は、(独) 科学技術振興機構の支援を受け、地域の市民の皆さんに科学に親しんでいただく取組みを進める人々のネットワーク、「RCE兵庫－神戸」は、自然との共生の中で豊かな未来を開いてゆこうという、「持続可能な発展のための教育」(ESD)に関わる人々のネットワークです。



「共生のひろば」に、コメンテータとしてお招きいただいたのも今年で3回目となりました。今回も、小学生からシニア世代まで、幅広いみなさんの熱意のこもった発表や、地道に積み重ねられた活動のご報告を大変興味深く、楽しく聞かせていただきました。

身近な自然に目を向ける

さまざまな発表の中で、庭を訪れるタヌキの行動を、赤外線カメラで記録し、見守った取組みの報告が印象に残りました。個人的な話になりますが、私は子どものころからタヌキが大好きでした。少し太っていたので、よく「狸ばやし」を歌った野口雨情作の有名な童謡を口ずさみながら、腹づつみを打っておどけたりしていました。小学生の頃、その童謡のもとになった昔話しが伝わるお寺が東京近郊の父の郷里の町にあることを知り、親に頼んで連れていってもらったことがあります。ひょっとしたらタヌキに会えるかもしれないと期待に胸をふくらませて寺を訪ねました。寺は地方都市の街中にあり、ひとけのない境内にはそれほど大きくない檻(おり)があって、一時タヌキを飼っていたようですが、その時すでにタヌキはおらず、檻が錆ついていたのがものさびしく心に残りました。今振り返ると、小さな檻の中で暮らしていたタヌキもあまり幸せではなかっただろうなどと、子ども心に感じたこともあったのだと思います。

震災の余韻の強く残る1995年の秋から神戸大学に勤務するようになりました。市街地のすぐ近くに豊かな自然があることが神戸の魅力の一つだと思います。六甲山中腹にある大学のキャンパスでは、よくイノシシに出合います。そして、夜遅くまで仕事をして深夜に帰宅しようとする時、時折タヌキも見かけました。ある時期、アライグマと頻繁に出合ったことがあり、その頃からタヌキを見る機会が減ったような気もして、このあたりの生活の場を追いやられたのではと少し心配しています。夏の夕方にはコウモリが空を舞い、小さいですが大学の農園ではカエルの合唱が聞こえます。豊かな自然に囲まれて暮らしておられる皆さんには「大げさだ」と言われるかもしれませんが、いろいろな生き物たちと身近に暮らせる今をととても幸せに思います。

もうひとつの「科学」

私の元々の専門は宇宙物理学ですが、5年ほど前から科学と社会の関係について考えるところがあり、いくつかの取組みを始めました。みなさんは、「科学」というと何を思い浮かべられるでしょうか。ノーベル賞、宇宙開発、バイオテクノロジー、スーパーコンピューター、……。

20 世紀、科学・技術が大きな進歩をとげ、恩恵として便利さや豊かさを私たちにもたらしめてくれました。一方で、その先端は高度化、専門化が進み、素人には難しすぎて縁遠くなってしまった感があります。科学者にとってさえ、自分の専門とする研究分野から少し外れた領域になると、理解することが難しくなっています。また、科学者の社会では、研究は「一番」でないと評価されないことから、激しい競争を勝ち抜くために忙しく、専門の研究以外に目を向ける余裕がなかなか持てないといったこともあります。

こうした、科学を職業とする人々の取組む「科学」とは違った、もう一つの「科学」の在り方があってよいように思います。この「共生のひろば」に集うみなさんのように、身近な自然に親しみや、愛情を感じ、それを見守ってゆく手立てとしての科学。何かに愛情を感じれば、それについてもっと知りたくなるでしょう。自然と人が対話する「ことば」としての科学。そのような「科学」があるとすれば、そこでの発見は、世界で最初、「一番」でなくてもよいでしょう。その人にとって、新しい事実、新しい発見ができたなら、その人には素晴らしい喜びになるはずです。カミソリのように頭が切れる優秀なエリートたちが、しのぎを削って推し進める「科学」とは違った、もうひとつの「科学」が、21 世紀、今の時代に改めて価値を持つのではないかと、私は思います。

むすび

「共生のひろば」は、そのようなもうひとつの「科学」の大きな可能性を感じさせてくれる素晴らしい場だと思います。そこに集うみなさんと、それを支える人と自然の博物館のみなさんに心からエールを送りたいと思います。また、このような取組みが、人と自然が調和しながら豊かな未来を拓いてゆく営みの素晴らしいモデルとして日本に、世界に広がることを願っています。